

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(4月13日に公表された情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。4月13日に公表された結果によると、8298件(福島県は225件)の検査がおこなわれていました。基準を超えたものはありませんでした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

(1)検査について基準を超えたものについて

ありませんでした。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2019年 3月 1日	99.7%	0.3%	0.0%
2019年 3月15日	99.7%	0.3%	0.0%
2019年 3月22日	100%	0.0%	0.0%
2019年 3月29日	100%	0.0%	0.0%
2019年 4月19日	100%	0.0%	0.0%
2019年 5月17日	100%	0.0%	0.0%
2019年 9月20日	99.2%	0.85%	0.0%
2019年 9月27日	99.8%	0.84%	0.0%
2019年10月 4日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月11日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月18日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月25日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月 1日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月15日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月22日	100%	0.0%	0.0%
2019年12月 6日	100%	0.0%	0.0%
2020年 1月10日	100%	0.0%	0.0%
2020年 1月31日	100%	0.0%	0.0%
2020年 2月10日	100%	0.0%	0.0%
2020年 2月21日	100%	0.0%	0.0%
2020年 2月27日	100%	0.0%	0.0%
2020年 4月13日	100%	0.0%	0.0%
2018年12月平均	99.7%	0.3%	0.0%

基準を超えた沿岸魚はみつきませんでした。福島県の93検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介はありませんでした。

(2)京都の空間線量(3月13日～4月12日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)1メートルの高さの推計値は0.054～0.064 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)報告がありませんでした(台風による業務停止のため欠測)。

特段の変化はなく、平常値です。

3. 関連情報

(1)すべての魚種 水揚げ再開可能に(福島 NEWS WEBより)

2月、国の出荷制限が解除された福島県沖の「コモンカスベ」について、県内の漁協の組合長らが集まる会議で、水揚げを再開することが決まりました。

これで原発事故の後、出荷制限がかかっていた魚種はすべて水揚げできるようになります。

福島県沖の「コモンカスベ」は、去年1月にとれた1匹から、国の基準の1キログラムあたり100ベクレルを超える161ベクレルの放射性物質が検出され、福島県沖の魚介類の中で唯一、出荷制限が続いていましたが、その後の検査で安定して基準値を下回り、2月25日に解除されました。

これを受けて、3月30日、いわき市で開かれた漁協の組合長らが集まる会議で、コモンカスベの水揚げを再開することが全会一致で決まりました。

これで、原発事故のあと、出荷制限がかかっていた福島県沖の魚種はすべて水揚げを再開できることになり、震災前の漁業の形に一步近づいたことになります。

県漁連の野崎哲会長は「出荷制限がかけられていたすべての魚種で漁を再開できるようになったことを重く受け止め、原発事故後、続いている試験操業から本操業への移行の議論も活発化していきたい」と話していました。

以上